

現計画では改築に要する整備費用を32年間で合計1,370億円と算定してる。

3. 学校施設の整備費用

(1) 今後の改築に係る費用の見通し

今後の学校施設の改築に係る費用の現状での見通しについては、図表52に示すとおり、令和元年度から令和32年度の32年間の合計で約1,370億円となります。また、内訳については、図表53のとおり、校舎で約988億円、体育館で約115億円、プールで約69億円、仮設校舎で約198億円となり、改築費全体の年間平均費用は約42.8億円となる見込みです。

なお、図表54に示すとおり、これまでの学校施設の整備費用は、平成22年度から平成30年度までの各年度の平均で約25.6億円となっています。

そのうち、改築費が約7.3億円、大規模改修費と維持補修費の合計が約18.3億円となっており、学校施設の整備費用については、改築費だけでなく、大規模改修費や維持補修費についても見込む必要があります。

このことから、今後、大規模改修費や維持補修費についても中長期的な財政見通しを作成します。

※出典：府中市学校施設
改築・長寿命化改修計
画 P82

今後の計画の方針案について

- ①現計画策定時点より、学校に求められる機能として、防災・環境配慮・教育的配慮に関する付加価値が社会的に変化したことに加え、建設費の高騰で増額となっている。（グラフ中央：八小・一中を踏まえた全体金額）
- ②八小・一中の金額は、他市事例と比較しても大幅に乖離はしていなかった。



- ①、②を踏まえ、建設費高騰分及び計画策定時に想定していた金額については、A～Dの項目を検討することにより、減額を試みる。（グラフ右：計画改定後の総額）

